

2019年2月		
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター 野菜・花き研究室
	職名及び氏名	上席研究員 宮本 直子
題名	7月どりエダマメの優良品種	

千葉県におけるエダマメの産出額は47億円で全国第1位（平成28年生産農業所得統計）です。県内の主な産地は東葛飾地域で、ゴールデンウィーク頃から季節を先取りしたエダマメの出荷を行っています。一方、南房総地域では在来大豆を活用した晩生エダマメ産地が形成されており、秋の味わい深いエダマメとして評価を得ています。しかし、出荷期間が10月中下旬の3週間程度と短いため、近年は、市販エダマメ品種を用いて出荷期間を拡大することが試みられています。また、南房総地域では、農産物直売所等の夏の目玉商品のひとつとしてエダマメは重要な品目です。そこで、4月播種7月収穫の作型における適品種を選定することを目的に、農林総合研究センター暖地園芸研究所（館山市）において、第67回全日本野菜品種審査会が開催されました。

2016年4月27日に直播したマルチ栽培のエダマメについて、出品された11品種の審査を7月21日に行ったところ、入賞した品種は、「M3-025（販売名「とびきり」）」（株）サカタのタネ、「夏風香」（雪印種苗（株））、「ゆかた娘」（カネコ種苗（株））及び「MEB-600（販売名「京の夕」）」（丸種（株））の4品種でした。1等の「M3-025」は莢数が特に多く、生育の揃いが良い点が高く評価されました（写真）。入賞品種は概ね食味が良好でした。

2016年は生育期間中の平均気温が平年よりも概ね高く推移し、生育は全般に良好であり、収穫期はやや早くなりました。産地で導入するに当たっては、気象条件等を考慮し、収穫時期の年次変動に留意してください。



写真 第1位「M3-025」（販売名「とびきり」）の収穫時の姿